

# McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

10

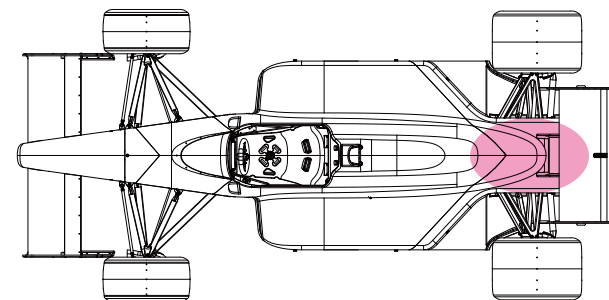
マクラーレン ホンダ  
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを  
内部機構まで完全再現！



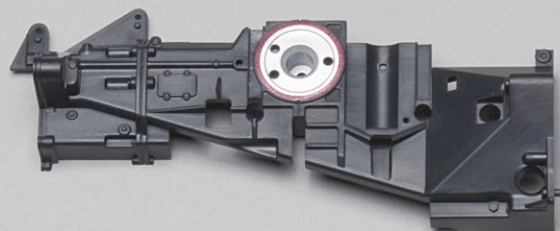
# Mission 35 ギアボックスを組み立てる①

今号から、マシンの骨格をなすモノコックとエンジンに続き、最後部にあるギアボックスの組み立てに入る。まず左右のギアボックスそれぞれに、後の号でドライブシャフトを接続するためのCVジョイント(内)を装着する。さらにギアボックス(左)にエンジンオイルラインを取り付ける。

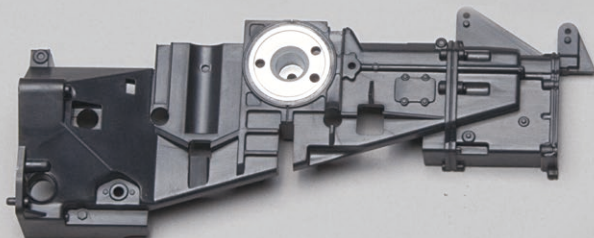


## 今号のパーツ

① ギアボックス(右)



② ギアボックス(左)



③ CVジョイント(内)×2



④ ビスG (2.0×6P-TP BK)×3



※ビスは予備1本を含む。

## 今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (0番)  
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・定規
- ・ピンセット
- ・つまようじ
- ・マスキングテープ

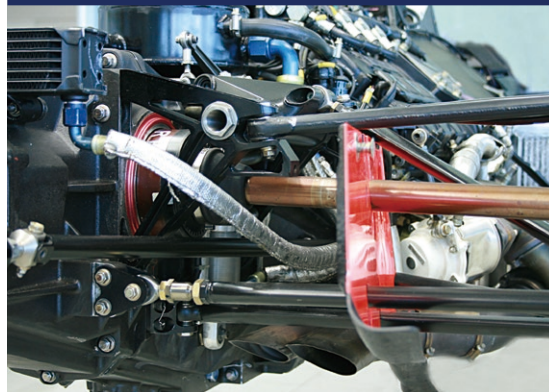
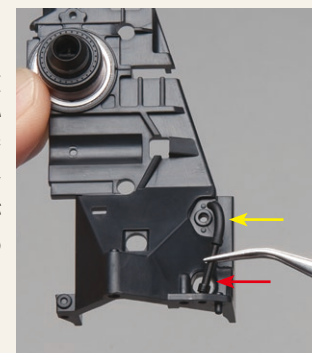
## 用意するもの

- ・エンジンオイルライン ※34号で提供

## ポイント

### エンジンオイルラインの取り付け方

●エンジンオイルラインを取り付ける際には、まず赤矢印で示した直線部分を先にはめてから、次に黄色い矢印で示したカーブした部分の先をはめると作業がしやすい。両方をはめてから、裏面から瞬間接着剤で固定する。



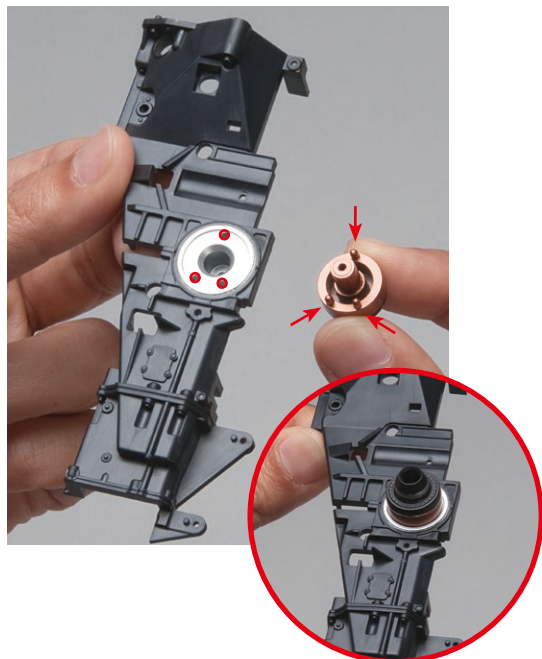
ギアボックスは、エンジンからの動力を回転速度とトルクを制御して他の装置に伝達する部分だ。MP4/4の骨格となるモノコック、エンジンから続き最後部にある。実車では、動力をエンジンからドライブシャフトへ伝達するため、複数のギアが複雑に組み込まれている。本モデルでは、ギアボックスの外観のディテールにこだわり、右側面のみ入る赤のラインまで再現している。

◀MP4/4のギアボックス。

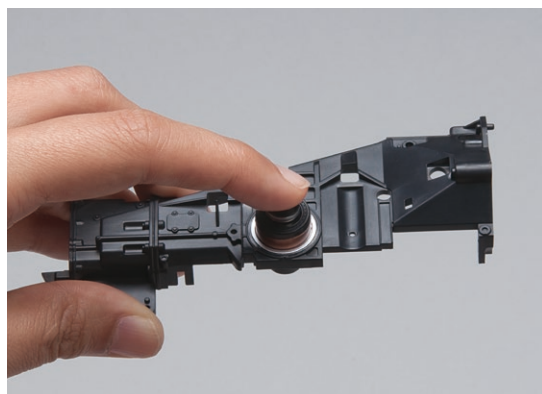
In Focus

# 1 ギアボックスにCVジョイント(内)を組み立てる

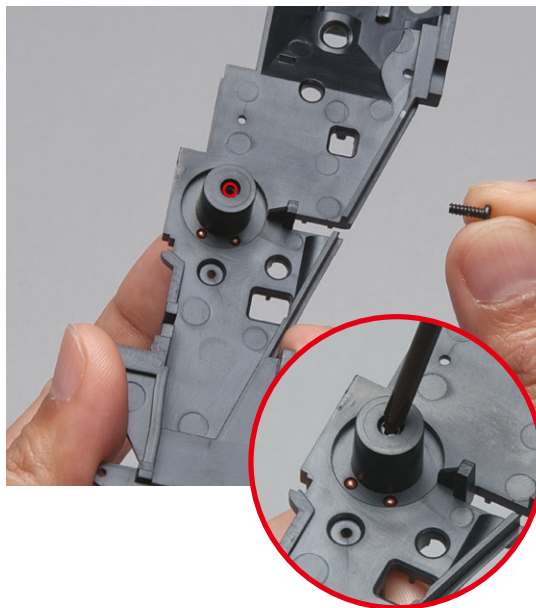
● ② ギアボックス(左)の赤丸で示した3つの穴に③CVジョイント(内)の赤矢印で示した3つの突起をそれぞれ合わせて差し込む。



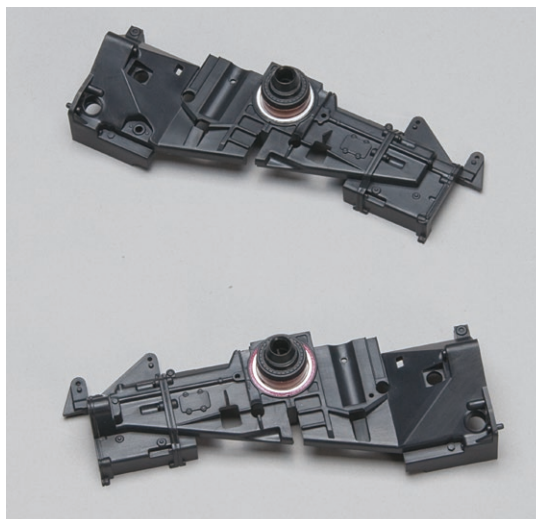
● 差し込んだCVジョイント(内)を、指で押さえて裏返す。



● 赤丸で示した部分に④ビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



● ① ギアボックス(右)も同様に、CVジョイント(内)を差し込み、ビスGで留める。



■ ギアボックス(左)(右)にCVジョイント(内)が組み合わされた状態。

# Check



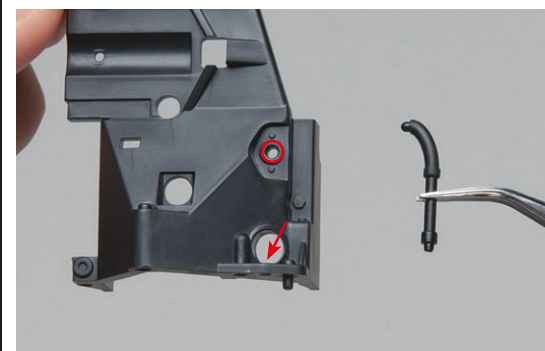
■ 後の号で、ギアボックス上下が取り付けられる。

# 2 ギアボックス(左)にエンジンオイルラインを組み合わせる

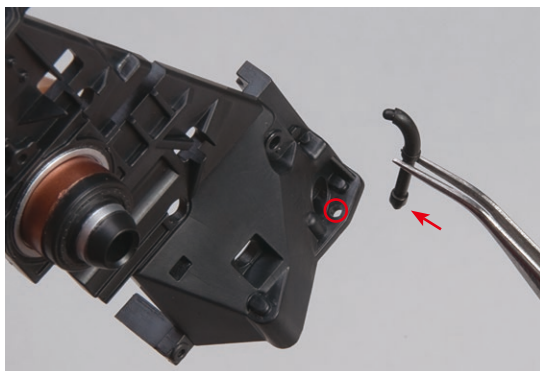
● 34号で提供された、エンジンオイルラインを用意する。



● ギアボックス(左)の赤丸部分と赤矢印部分にエンジンオイルラインを取り付ける。



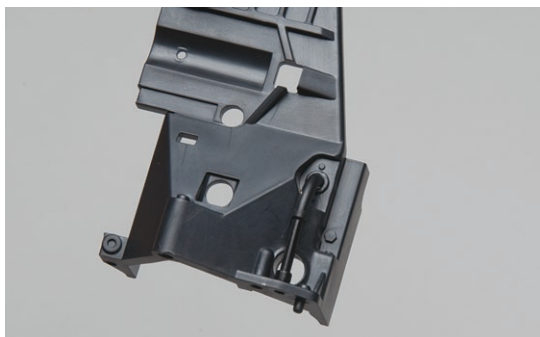
●まずエンジンオイルラインの赤矢印で示した直線側の部分を、ギアボックス(左)の赤丸で示した部分に差し込む。



●エンジンオイルラインのカーブした先を、ギアボックス(左)の赤丸で示した部分に差し込む。



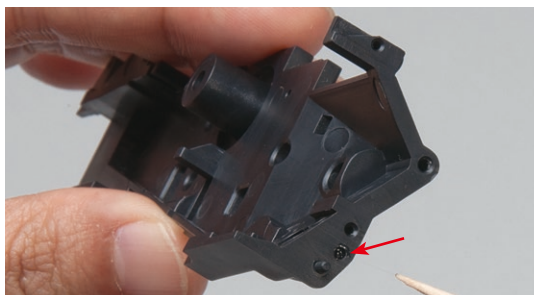
●ギアボックス(左)にエンジンオイルラインが装着された。



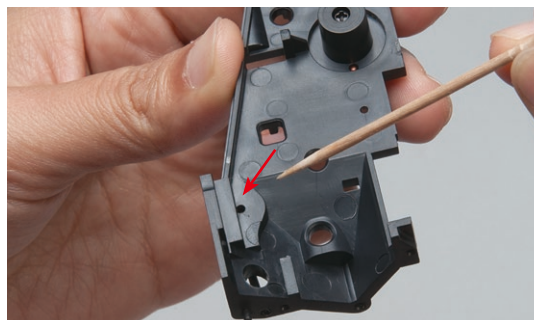
3

ギアボックス(左)にエンジンオイルラインを接着する

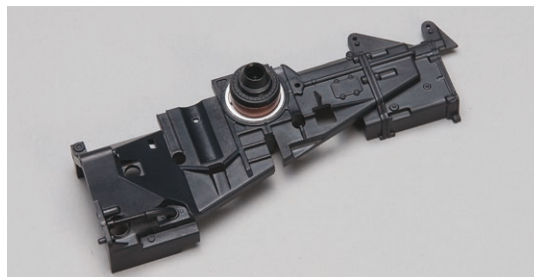
●ギアボックス(左)の裏側から、赤矢印で示したエンジンオイルラインを差し込んだ穴に、つまようじを使用して瞬間接着剤を少量流し込み、1分間程度動かさないようにする。



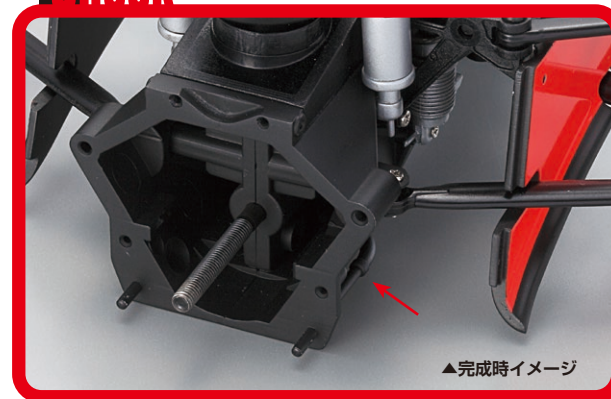
●同様にして、赤矢印で示したもう片方の穴にも、瞬間接着剤を少量流し込み、1分間程度動かさないようにする。



●ギアボックス(左)にエンジンオイルラインがとりつけられた。



Check



■赤矢印で示した部分がエンジンオイルライン

今号の完成

左右のギアボックスに後にドライブシャフトを接続するためのCVジョイント(内)が装着され、ギアボックス(左)にエンジンオイルラインが取り付けられた。



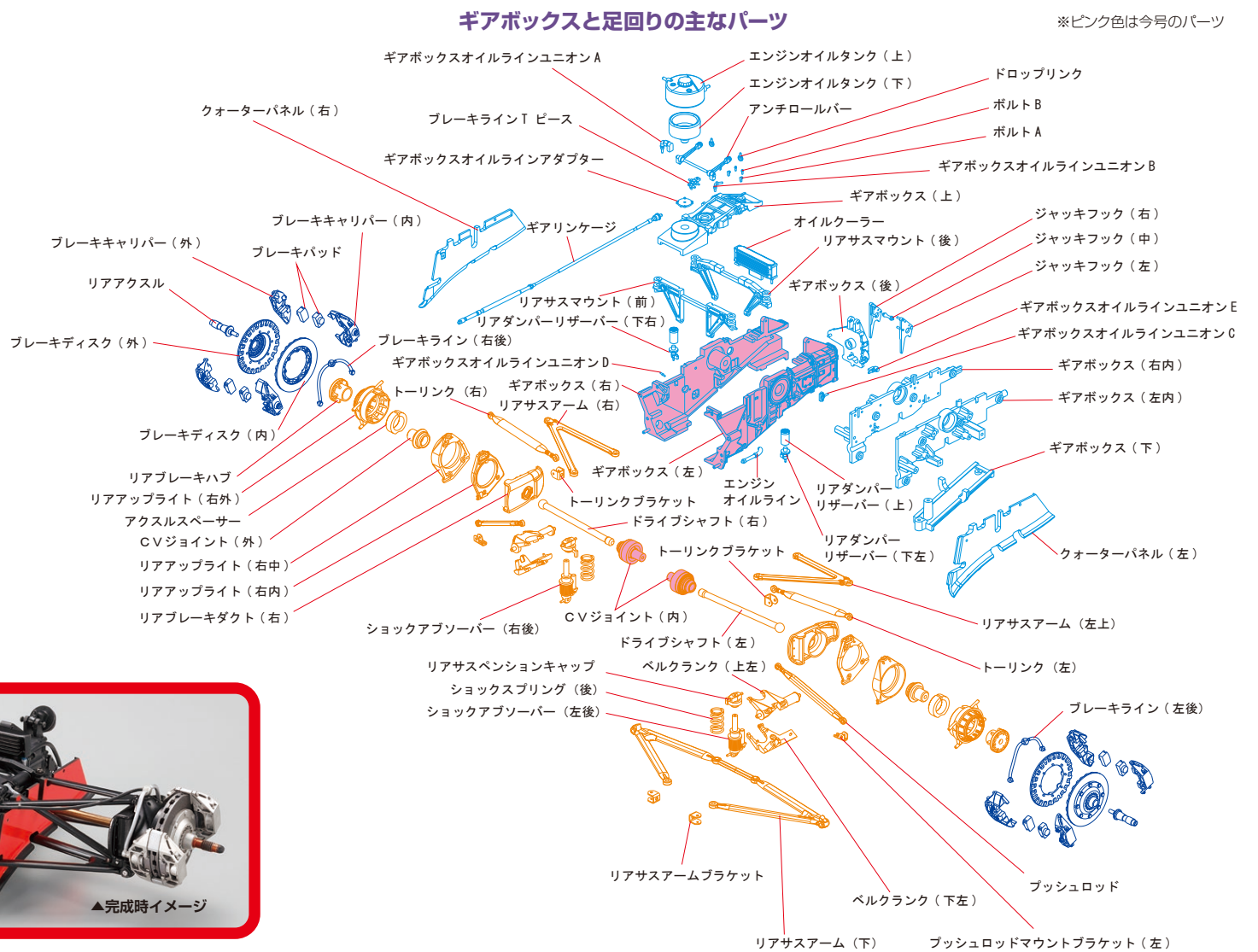
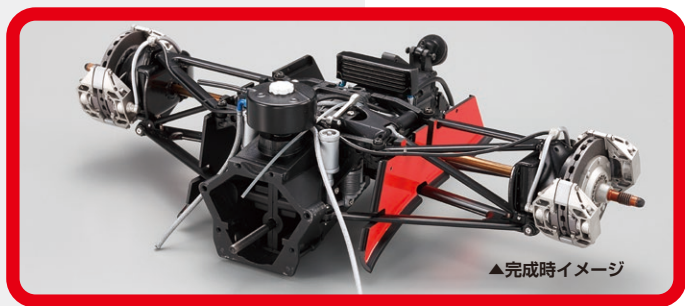
# PIT IN

## ギアボックスとリアの足回りの組み立て

### 動力の伝達経路や操縦性能を左右するマシンの要

エンジンで発生した動力は、ギアボックスで回転速度とトルクを制御されて、ドライブシャフトを介してリアタイヤに伝達される。

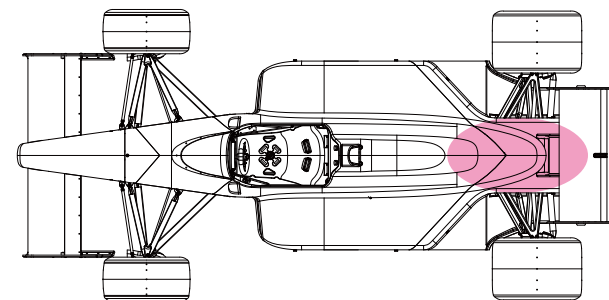
本モデルでは、32～45号までの提供パーツ・組み立て作業で、その伝達経路や操縦性能を左右するマシンにとって非常に重要な部分である、ギアボックス、サスペンション、アップライト、ブレーキなどを完成に近づける。右のイラストには、ビス類、ホース類は記載していないが、モデルではディテールにこだわったパイピングも行うので、さらにスケールモデルとしての完成度が上がる。



※イラストはモデルのパーツ構成なので実車とは異なる部分がある。

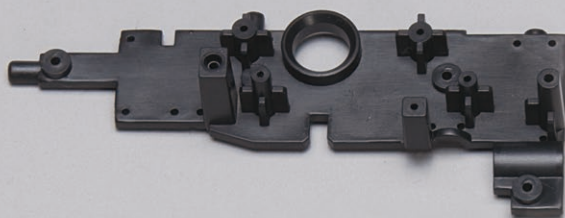
# Mission 36 ギアボックスを組み立てる②

今号は、前号で組み立てた左右のギアボックスに、ギアボックス(右内)、(左内)を取り付けて、ギアボックスを完全に近づける。次にショックアブソーバーの減衰力をダンパーオイルの量で調整するための関連部品であるリアダンパーリザーバーを2つ組み立てる。



## 今号のパーツ

① ギアボックス(右内)



③ リアダンパーリザーバー (上) × 2



④ リアダンパーリザーバー (左下)      ⑤ リアダンパーリザーバー (右下)



② ギアボックス(左内)



⑥ ビスG (2.0 × 6P-TP BK) × 5



⑦ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 5



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑤はHIPS (スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)  
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター

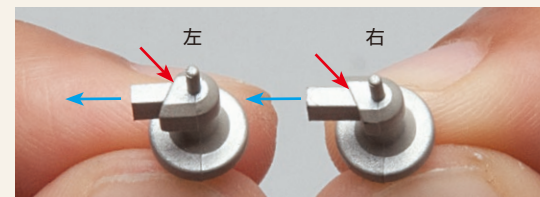
## 用意するもの

- ・ギアボックス(右) ※35号で組み立て
- ・ギアボックス(左) ※35号で組み立て
- ・ギアボックスオイルラインユニオンC  
※34号で提供のランナーパーツ

## ポイント

リアダンパーリザーバーの左右の見分け方

●パーツの突起を左(青矢印の方向)に向けたとき、赤矢印で示した段差の形が右上から左下にかけて傾斜しているのが左側、左上から右下にかけて傾斜しているのが右側。2つ並べると「ハ」の字型になる。後の号で車体へ取り付ける際に必要となるので、確認しておこう。



リアダンパーリザーバーはショックアブソーバーの減衰力をダンパーオイルの量で調整するためのリザーブタンクで、フロントにはない部品だ。これにより確実にエンジンパワーを路面に伝達することができる。本モデルのリアダンパーリザーバーは、実車により近づけるために側面と上面の塗装色を分け、後の号でホースを取り付けるための突起を設けるなど、ディテールにこだわった形状となっている。

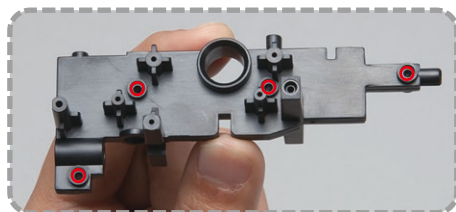
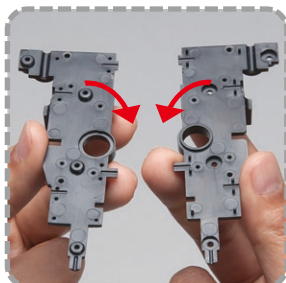
◀MP4/4のリアダンパーリザーバー。

In Focus

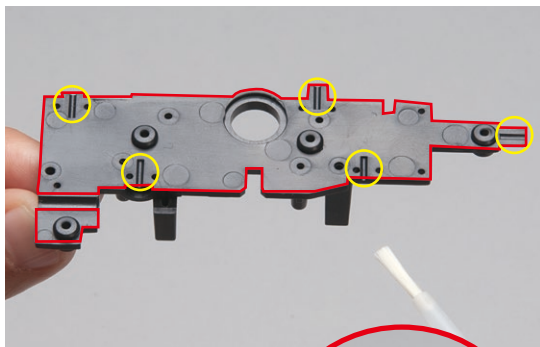
# 1 ギアボックス (右内) とギアボックス (左内) を組み立てる

## 《仮組み》

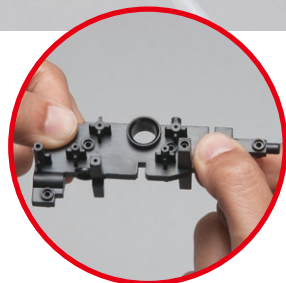
① ギアボックス(右内) と ② ギアボックス(左内) を写真のように突起や形状を合わせて、接着面を確認する。組み合わせたら、赤丸で示したビスを締める4箇所を確認する。



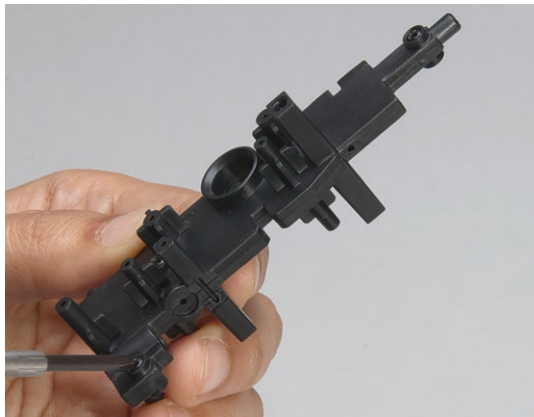
● ギアボックス(右内)の赤枠で示した接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように組み合わせて、指で2~3分おさえる。



■ 黄色い丸で示した溝状の凹みは、後にビス穴となるので、その周りにはしっかり塗っておく。接着剤は凹みの中にはみ出しても構わない。

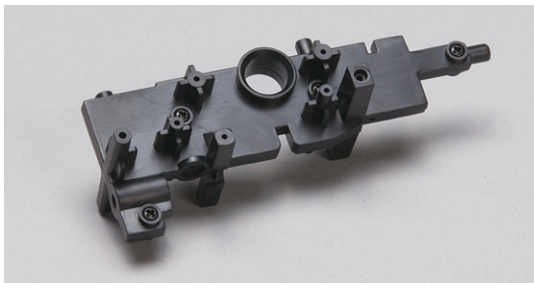


● ⑥ビスG×4を、仮組みで確認したビス穴にそれぞれ差し、プラスドライバー (0番) で締める。



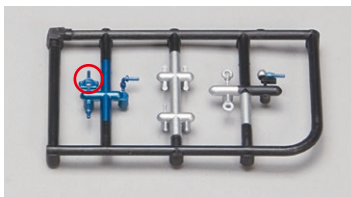
■ ギアボックス(右内)、(左内)がすき間なく重なっていることを確認し、しっかりビスを締める。

● ギアボックス(右内)、(左内)が組み合わさりギアボックス(内)ができた。



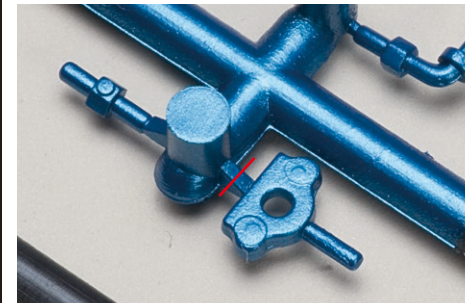
# 2 ギアボックスオイルラインユニオンCをランナーパーツから切り離す

● 34号で提供されたランナーパーツを用意する。



■ 赤丸で示した部分がギアボックスオイルラインユニオンC

● ランナーパーツを裏返し、ギアボックスオイルラインユニオンCを赤線部分からカッターで切り離す。



■ ランナーパーツは、全体を囲むランナーとパーツ、それらをつなぐゲートからできている。ぎりぎりにパーツを切ると破損することがあるので、ゲートを長めに残して切り離す。

● ギアボックスオイルラインユニオンCに残ったゲートは、パーツの裏側から赤線部分をカッターでパーツを傷つけないよう慎重にカットする。



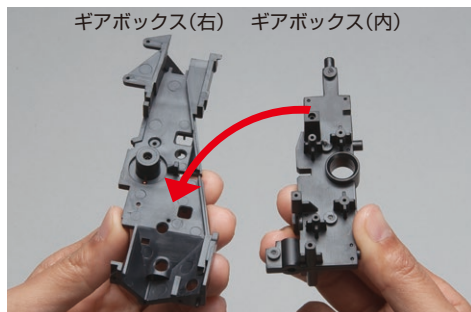
■ ギアボックスオイルラインユニオンCは、円形の凹みのある方が表側となる。

# 3 ギアボックスを組み立てる

● 35号で組み立てたギアボックス(右)とギアボックス(左)を用意する。

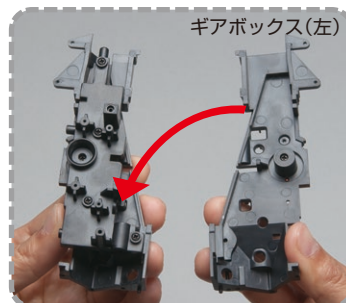


- ギアボックス(右)に1で組み立てたギアボックス(内)を突起や形状を合わせて組み合わせる。



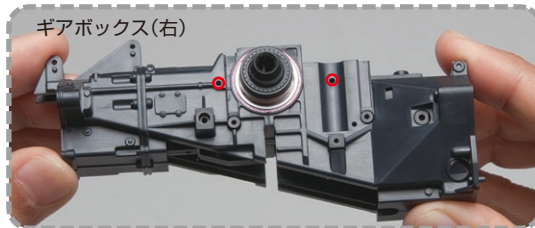
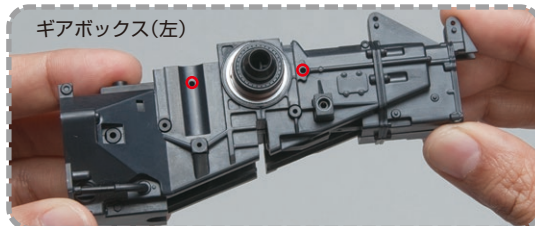
《仮組み》

それらにギアボックス(左)を突起や形状を合わせて組み合わせ、ギアボックス(右)、(左)の接着面を確認する。

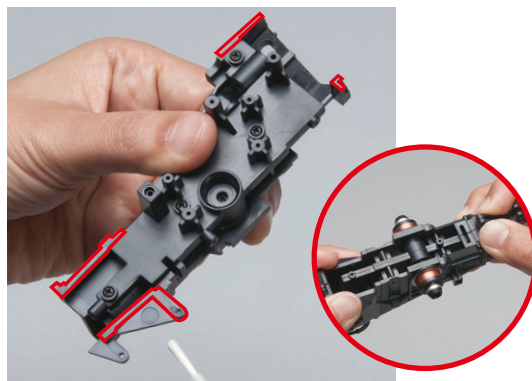


《仮組み》

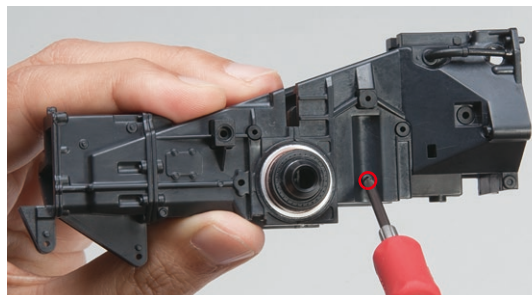
組み合わせたギアボックス(左)の赤丸で示した2箇所にビスを締めるので確認する。同様にギアボックス(右)の赤丸で示したビスを締める2箇所を確認する。



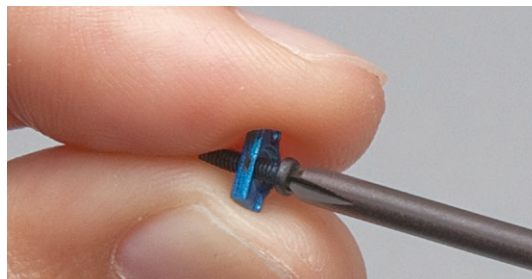
- 赤枠で示したギアボックス(右)の接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ギアボックス(左)を合わせ指で2～3分おさえる。



- ギアボックス(左)の赤丸で示した箇所にビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- ギアボックスオイルラインユニオンCの表側から、7ビスJを差ししておく。



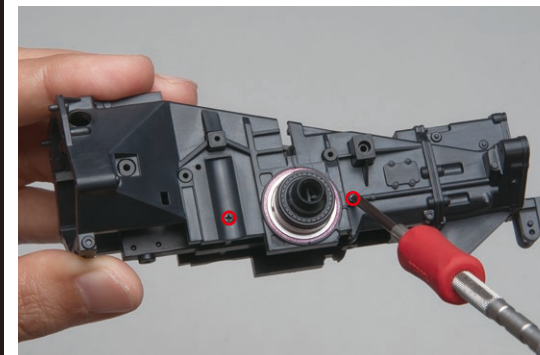
- ギアボックスオイルラインユニオンCの突起を折らないよう注意する。差し込みにくい場合はプラスドライバー(00番)を使用してねじ込む。

- ギアボックス(左)の赤丸で示したもう1箇所に、ビスJを差しておいたギアボックスオイルラインユニオンCを取り付ける。

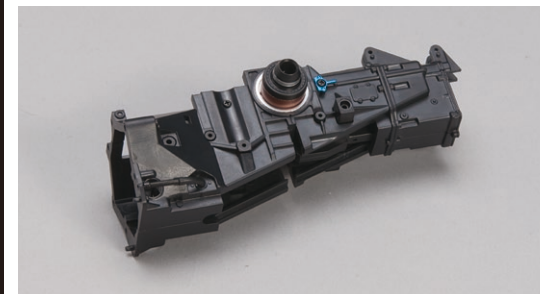


- ギアボックスオイルラインユニオンCは、ビスJを完全に固定する直前に写真のような向きにする。

- ギアボックス(右)の赤丸で示した2箇所にビスJをそれぞれ差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- ギアボックスの組み立てが完成した。

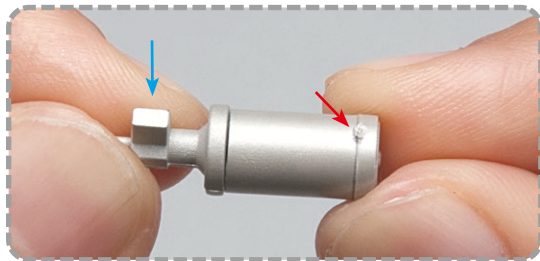
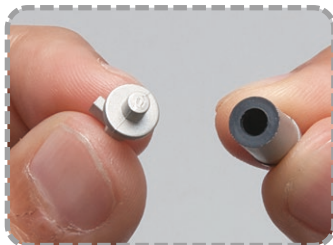




## 4 リアダンパーリザーバーを組み立てる

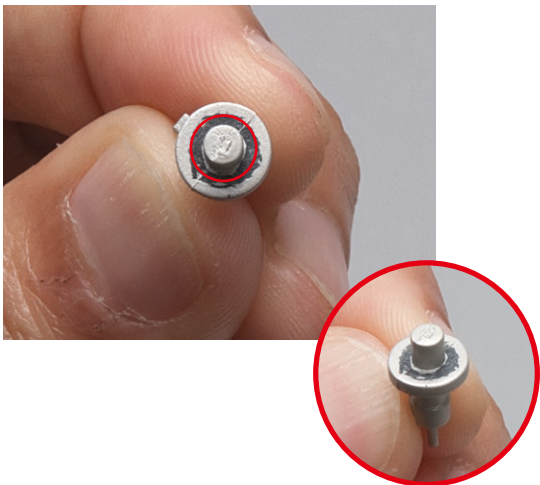
### 《仮組み》

④リアダンパーリザーバー（下左）と③リアダンパーリザーバー（上）を写真のように組み合わせて、接着面を確認する。

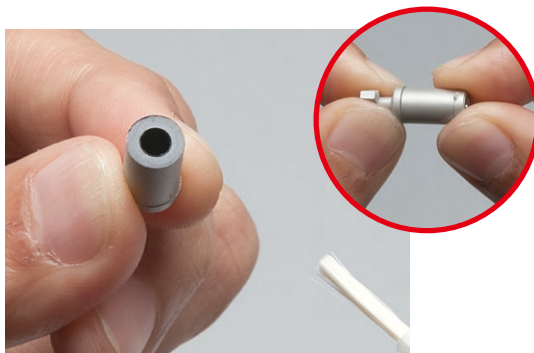


■リアダンパーリザーバー（上）には、赤矢印で示した部分にゲート跡が残っている。この部分を写真のようにリアダンパーリザーバー（下左）の青矢印で示した突起側に合わせると、後の号でギアボックスに取り付ける際に目立たなくなる。

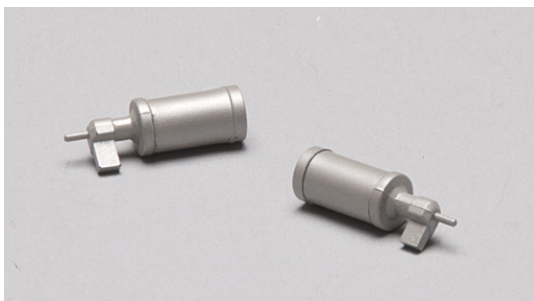
●リアダンパーリザーバー（下左）の突起の周りは接着面となるので、赤丸で示したように全体の半分程度、塗装をはがす。



●リアダンパーリザーバー（上）の穴と、その周りのへりにプラスチック（スチロール樹脂）用接着剤を塗り、すぐに合わせて指で2～3分おさえる。



●同様に⑤リアダンパーリザーバー（下右）も、リアダンパーリザーバー（上）を接着する。



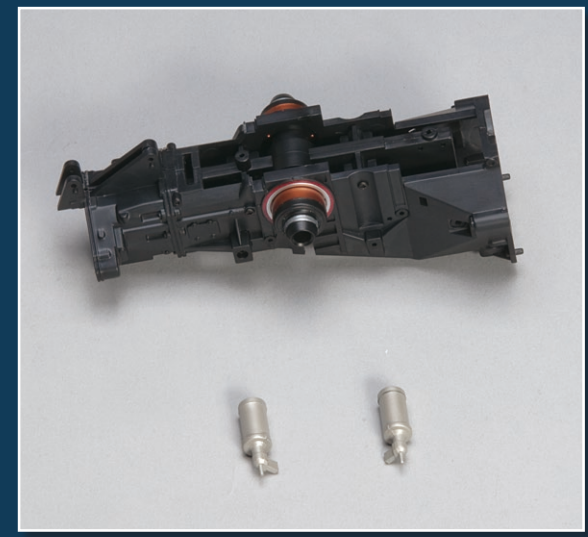
## Check



■リアダンパーリザーバーは後にギアボックスに取り付けられる。

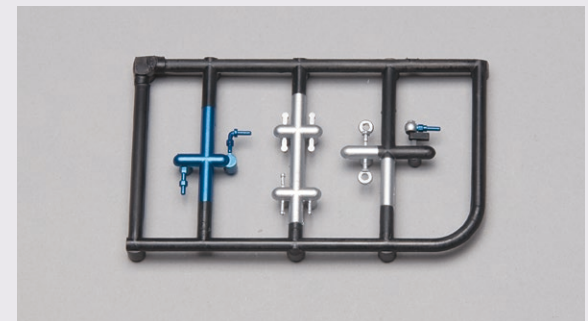
## 今号の完成

ギアボックス（右）、（左）にギアボックス（内）が取り付けられ、ギアボックスが完成し、後にそこに装着されるリアダンパーリザーバー2つを組み立てた。



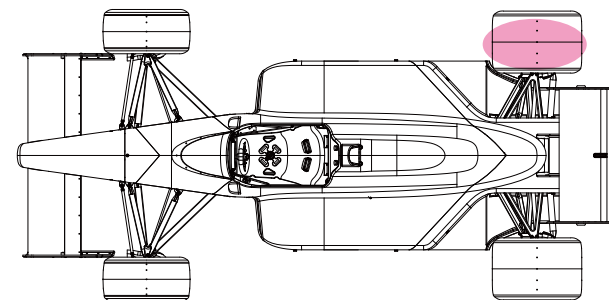
## 保管パーツ

ランナーパーツに残ったギアボックスオイルラインユニオンB、ボルトA×4、ギアボックスオイルラインユニオンE、ギアボックスオイルラインユニオンD、ボルトB×3、ドロップリンク×2は、後の号で使用するまで、ランナーから取り外さず、このままの状態での保管しておこう。



# Mission 37 右のリアアップライトを組み立てる

今号は、まずリアアップライト(右外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサーを取り付け、ドライブシャフトを接続するためのCVジョイント(外)、リアアクスルを組み合わせる。次に、それらにリアアップライト(右中)、リアアップライト(右内)を取り付ける。



## 今号のパーツ

① リアブレーキダクト(右)



② リアアップライト(右内)



③ リアアップライト(右中)



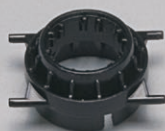
④ CVジョイント(外)



⑤ アクスルスペーサー



⑥ リアアップライト(右外)



⑦ リアブレーキハブ



※④と⑤は組み合わせた状態で梱包されている。

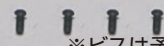
⑧ リアアクスル



⑨ ビスE (2.0×6P-M SiL)×2



⑩ ビスR (1.4×4F-M BK)×4



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑦はHIPS (スチロール樹脂)製

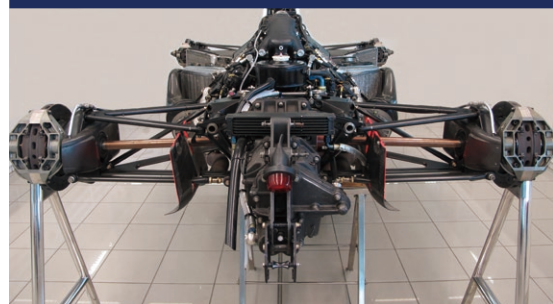
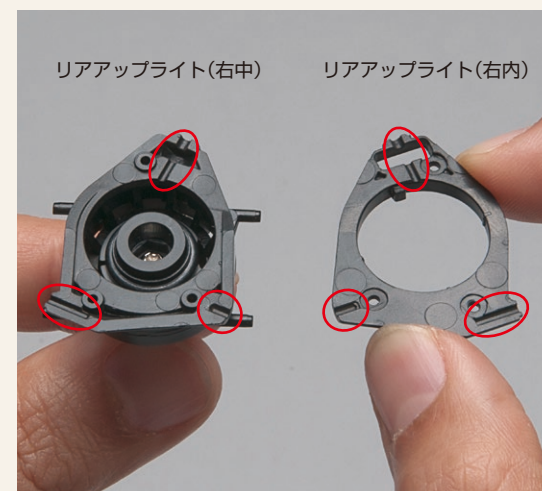
## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー(00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー(0番)  
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター

## ポイント

リアアップライト(右内)と(右中)の接着

●リアアップライト(右内)とリアアップライト(右中)を接着する際に、赤丸で示した溝の部分3箇所は後の号でビス留めをする箇所となるため、はがれないように今回しっかり接着しておく。



左右対称形をしているリアアップライトは、フロントアップライトと違いドライブシャフトが取り付けられるので、ボディへの組み立ての際はブレーキダクトも左右に装着される。本モデルでは、リアアップライトと今後提供されるサスペンションアームとの取り付け位置が、実車の構造に近い形で再現されている。

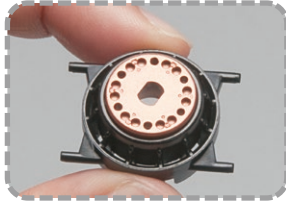
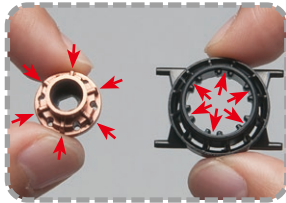
◀MP4/4の左右のリアアップライト。

In Focus

# 1 リアアップライト(右外)にリアブレーキハブを取り付ける

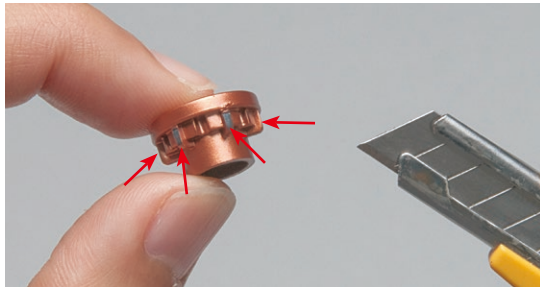
## 《仮組み》

⑥リアアップライト(右外)の内側にある赤矢印で示した狭い突起の間に、⑦リアブレーキハブの赤矢印で示した突起を組み合わせ、接着する部分を確認する。

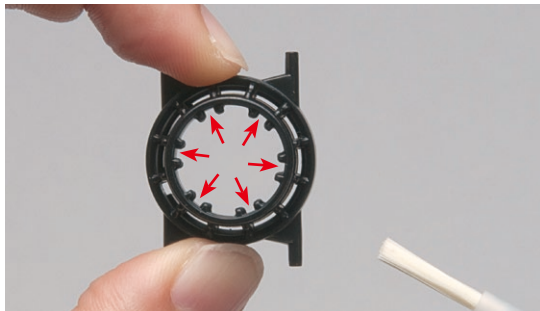


■リアブレーキハブが動かないことを確認する。

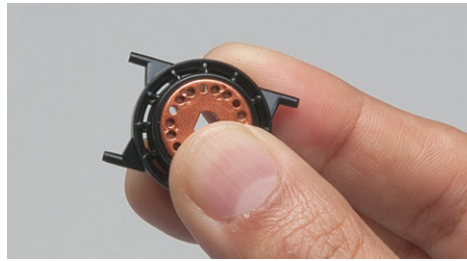
●リアブレーキハブの赤矢印で示した接着面の塗装をカッターの刃のない部分でけす。



●リアアップライト(右外)の赤矢印で示した狭い突起の間に、それぞれにプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。

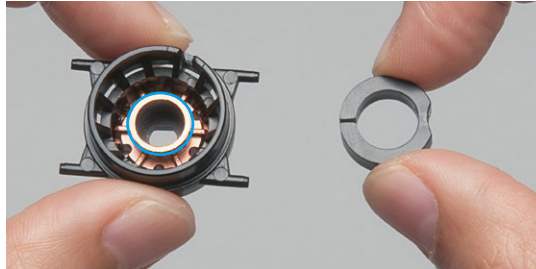


●仮組みしたようにリアブレーキハブを合わせ、指で2~3分おさえる。

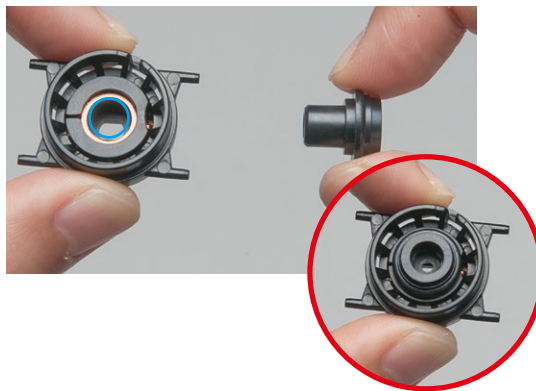


# 2 リアアップライト(右外)にアクスルスペーサーとCVジョイント(外)、リアアクスルを取り付ける

●リアアップライト(右外)の青丸で示した部分に⑤アクスルスペーサーをはめる。アクスルスペーサーには向きはない。



●リアアップライト(右外)の青丸で示した部分に④CVジョイント(外)をはめる。



●CVジョイント(外)を指で押さえながらリアアップライト(右外)を裏返し、⑧リアアクスルをブレーキハブの穴の形に合わせて差し込む。



■奥までしっかりとリアアクスルを差し込む。

●CVジョイント(外)を取り付けた側の赤丸で示した部分に⑨ビスEを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



●リアアップライト(右外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサー、CVジョイント(外)、リアアクスルが取り付けられた。

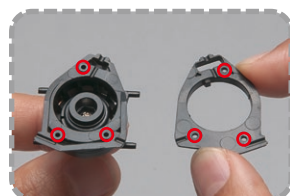
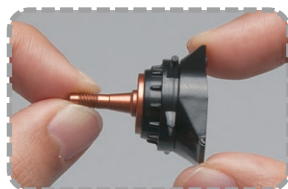


3

### リアアップライト(右外)にリアアップライト(右中)、リアアップライト(右内)の接着準備

#### 《仮組み》

リアアップライト(右外)の赤矢印で示した凹みと③リアアップライト(右中)の黄色の矢印で示した突起を合わせて、接着面を確認する。

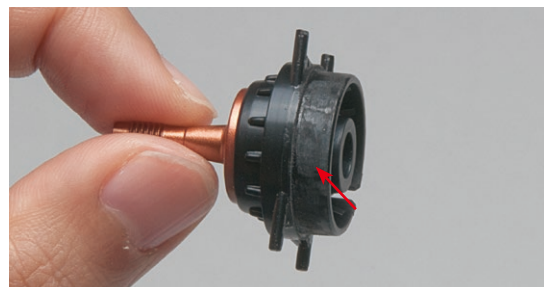


#### 《仮組み》

リアアップライト(右中)と②リアアップライト(右内)を合わせて、接着面と赤丸で示したビス留めの3箇所の位置を確認する。



●リアアップライト(右外)の赤矢印で示した接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



●リアアップライト(右中)の赤矢印で示したリアアップライト(右外)との接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



●リアアップライト(右中)の接着面となる部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■赤丸で示した部分は、後にそれぞれビス留めを行う箇所となる、確実に接着するよう、その周りは丁寧にはがす。

●同様に、リアアップライト(右内)の接着面となる部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

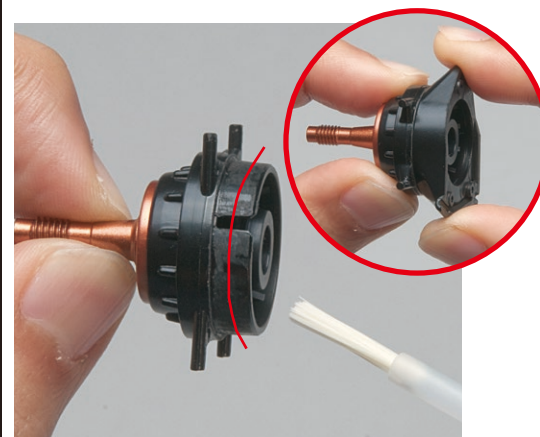


■赤丸で示した部分は、後にそれぞれビス留めを行う箇所となる、確実に接着するよう、その周りは丁寧にはがす。

4

### リアアップライト(右外)にリアアップライト(右中)、リアアップライト(右内)の取り付け

●リアアップライト(右外)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、リアアップライト(右中)を合わせて指で2~3分おさえる。



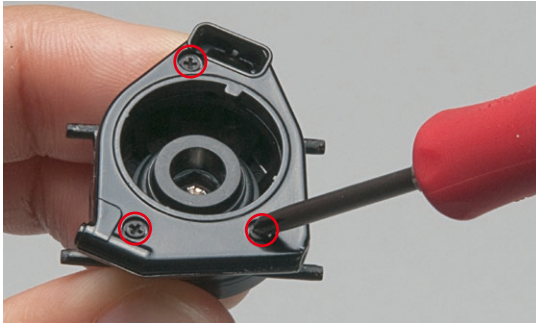
■はみ出し防止のために、接着剤は赤線で示したように先端から半分程度までにする。

●リアアップライト(右中)の塗装をはがした部分に接着剤を塗り、リアアップライト(右内)を合わせる。

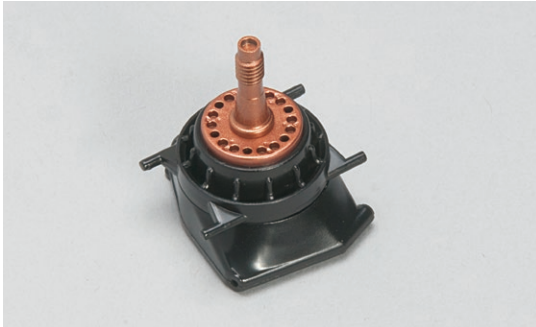


■後にビス留めする箇所となる赤丸で示した溝の部分には、しっかりと接着剤を塗る。

● 赤丸で示した3箇所に⑩ビスRをそれぞれ差し、プラスドライバー（00番）で締める。



● 完全に接着するまで、1時間ほど置く。



## 今号の完成

リアアップライト(右外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサー、ドライブシャフトを接続するためのCVジョイント(外)、リアアクスルを組み合わせた後に、リアアップライト(右中)、リアアップライト(右内)を取り付け、リアアップライト(右)が組み立てられた。



## 保管パーツ

今号で使用しなかった①リアブレーキダクト(右)は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



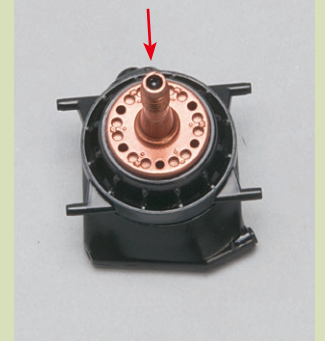
## ディテールアップ

リアアクスルのスミ入れ

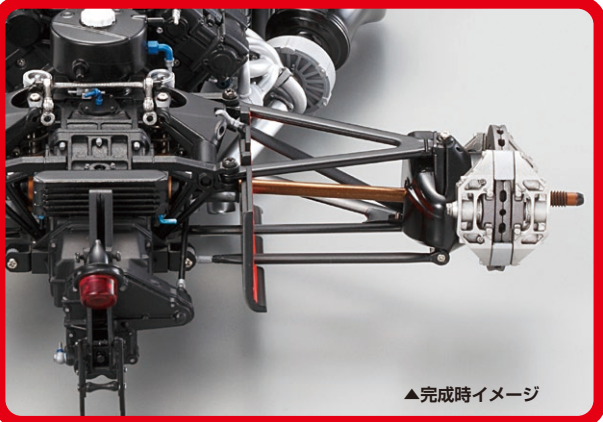
● 33号で紹介した左のリアアクスルと同様に、赤矢印で示した先端の凹み部分にスミ入れすると重厚感が増す。この作業は今号の作業後に行うとよい。

※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

スミ入れ後



## Check



▲完成時イメージ

■後の号でブレーキディスクとブレーキキャリパーを装着し、リアブレーキとなる。

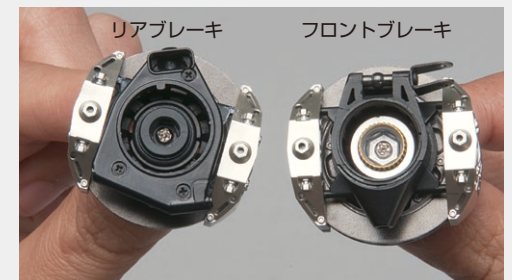
## PIT IN

### フロントブレーキとリアブレーキ

#### 細部の違いを再現

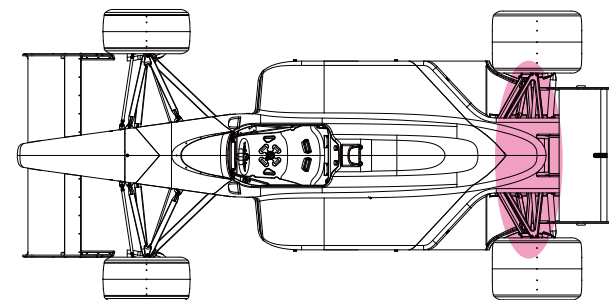
リアのアップライトは、ドライブシャフトが接続されるため、フロントのアップライトとは形状が異なっている。また、駆動輪を制御することから、より大きな負担がかかるリアブレーキも、キャリパーの取り付け角度がフロントとは異なる。

本モデルでは、1:8というビッグスケールのメリットをいかして、外側だけでなく内側の形状やカラーリングも可能な限り再現している。リアブレーキの最終的な取り付けの前に、フロントブレーキとの違いをじっくり鑑賞してみよう。



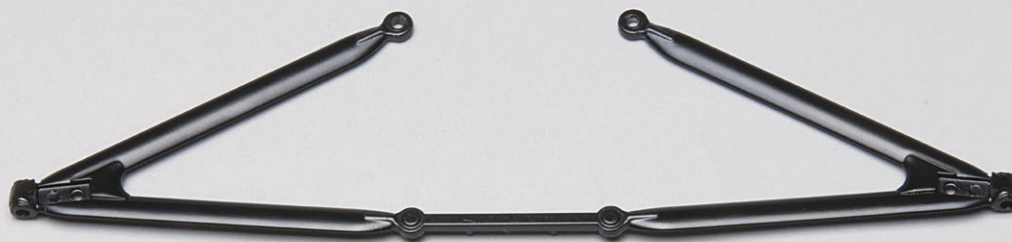
# Mission 38 リアのサスアームを組み立てる①

今号はリアサスアーム(下)にプッシュロッドブラケット(左)(右)を取り付ける。次に、ギアボックスの左右の側面にリアサスアームブラケットを取り付け、後の号でリアサスアーム(下)を装着するための準備を行い、実車との違いを確かめながら、リアサスアーム(下)の取り付け位置を確認する。

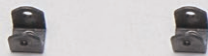


## 今号のパーツ

① リアサスアーム(下) ダイキャスト製



② リアサスアームブラケット×2 メタル製



③ プッシュロッド  
ブラケット(左) メタル製



④ プッシュロッド  
ブラケット(右) メタル製



⑤ ビスG (2.0×6P-TP BK)×3



⑥ ビスP (1.4×6P-M SiL)×3



⑦ ビスR (1.4×4F-M BK)×3



※ビスは予備1本を含む。

## 今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)  
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ピンセット
- ・マスキングテープ

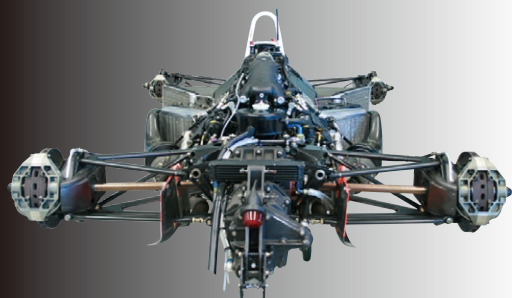
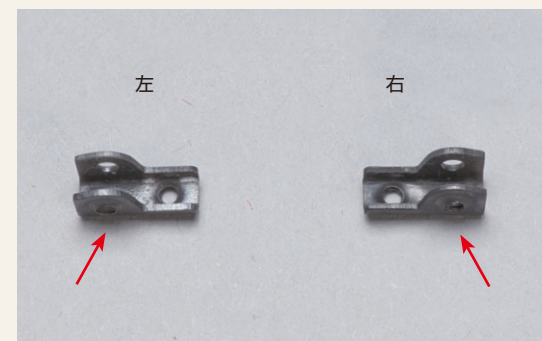
## 用意するもの

- ・ギアボックス ※36号で組み立て

## ポイント

プッシュロッドブラケットの左右の見分け方

●プッシュロッドブラケットは、赤矢印で示した部分にネジ山が切れ、外側にやや盛り上がっている。この面を手前に向けて写真のように置いた時に、左側にあるのが左、右側にあるのが右となる。



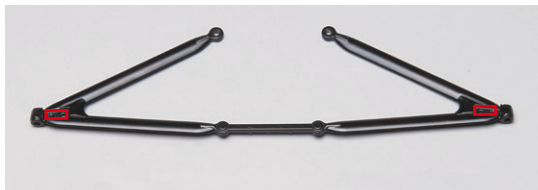
リアサスアームは車体とタイヤ周りを繋ぐのに欠かせないものだ。実車では、ほかのサスアーム同様に左右に別れている。本モデルは、リアサスアームが接続されて1つのパーツとなっているが、その連結部以外については、マクラーレン社より資料として提供された当時の手書きの図面を元に設計を行い、断面の形状にもこだわるなど、実車により近いディテールを再現している。

◀MP4/4の後方部分。

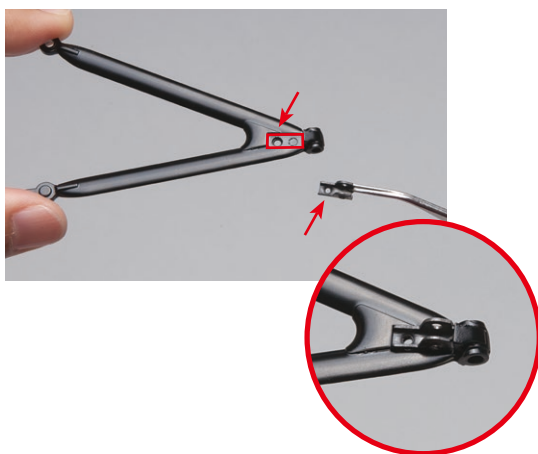
In Focus

## 1 リアサスアーム(下)にプッシュロッド ブラケット(右)(左)を取り付ける

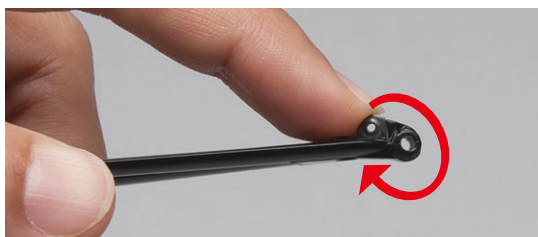
● ①リアサスアーム(下)は赤枠で囲った凹みがある方が上となる。後の取り付けの際に必要なので確認しておく。



● リアサスアーム(下)の右側にある赤枠で囲った部分に④プッシュロッドブラケット(右)の形状を合わせ、それぞれ赤矢印で示したビス穴を重ねるようにして組み合わせる。



● プッシュロッドブラケット(右)がずれないように指で押さえたまま、リアサスアーム(下)を裏返す。



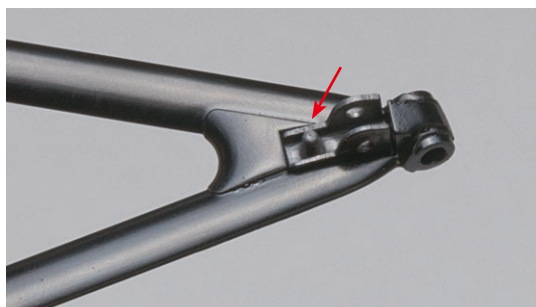
● 小さなビスが留めやすいように、プラスドライバー(00番)の先端にマスキングテープで⑦ビスRを固定しておく。



● 赤丸で示したビス穴にビスRを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



● ビスの頭がリアサスアーム(下)に達するまで締める。そうすると赤矢印で示したように、リアサスアーム(下)の上にビスが飛び出した状態になる。



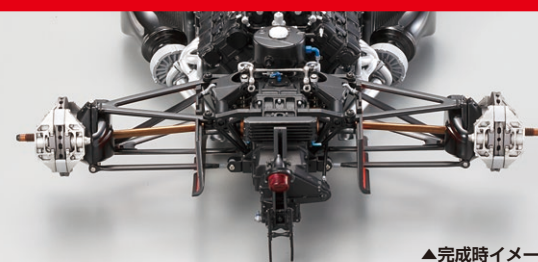
● 同様に、リアサスアーム(下)の左側にある凹みと③プッシュロッドブラケット(左)の形状を合わせて組み合わせ、裏返してからビスRで固定する。



● リアサスアーム(下)にプッシュロッドブラケット(右)(左)が取り付けられた。



## Check



▲完成時イメージ

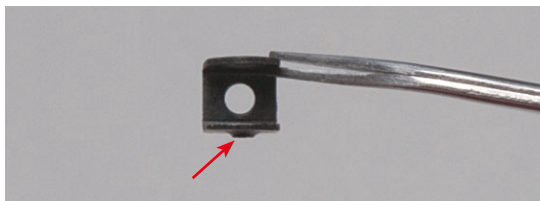
■後の号でギアボックスに取り付けられる。

## 2 ギアボックスにリアサスアーム ブラケットを取り付ける

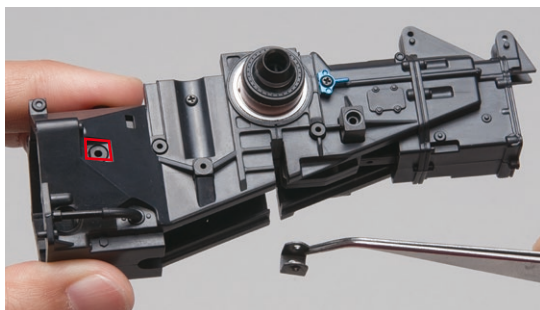
● 36号で組み立てたギアボックスを用意する。



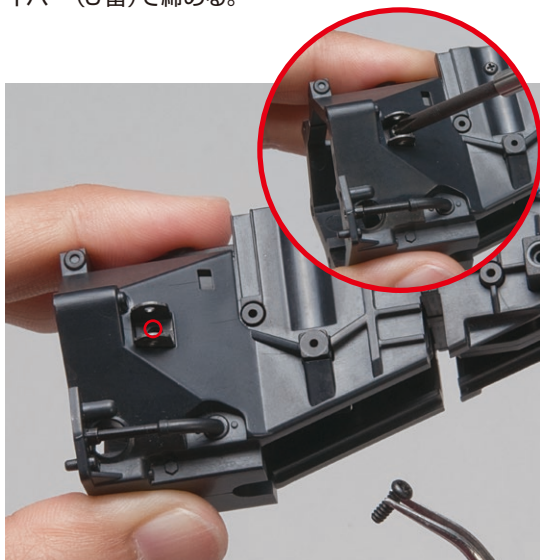
- ② リアサスアームブラケットを、写真のように赤矢印で示したネジ山が切られている部分を下にしてピンセットで持つ。



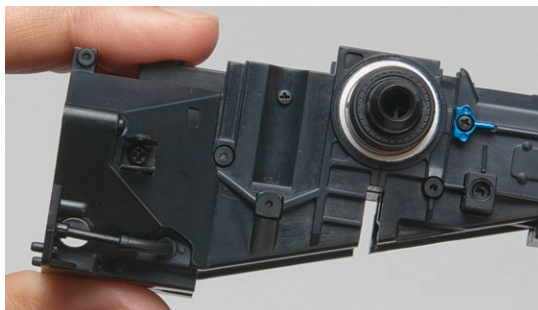
- ギアボックス左側面の赤枠で示した部分にリアサスアームブラケットを合わせる。



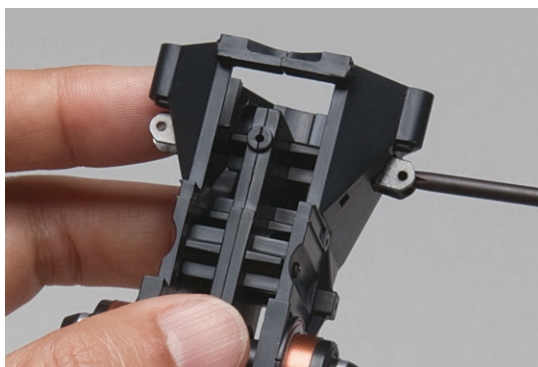
- 赤丸で示したビス穴に⑤ビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



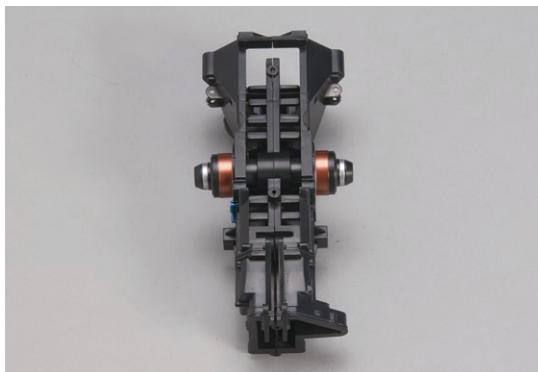
- ギアボックス左側面にリアサスアームブラケットが取り付けられた。



- 同様に、ギアボックス右側面にリアサスアームブラケットを合わせ、ビス穴にビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



- ギアボックスの左右にリアサスアームブラケットが1つずつ取り付けられた。



## Check

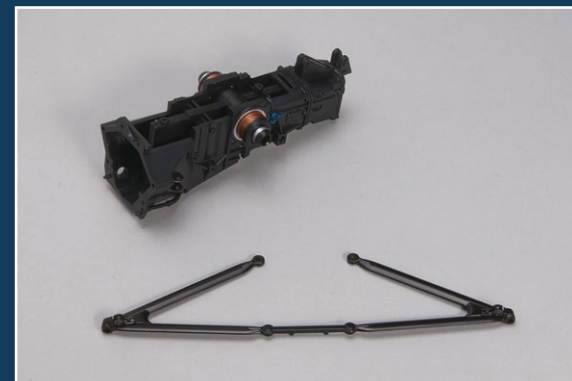


▲完成時イメージ

- 後の号でサスアーム(上)などが装着される。

## 今号の完成

リアサスアーム(下)にプッシュロッドブラケット(左)(右)が、またギアボックスの左右の側面にリアサスアームブラケットがそれぞれ取り付けられた。



## 保管パーツ

今号で使用しなかった⑥ビスPは、今後リアサスアーム(下)を固定するために使用するので、ビス用の保管袋に入れるなどして大切に保管しておこう。





## ナビゲーション

今号で組み立てたリアサスアーム(下)は、後の号でギアボックスの左右に取り付けたリアサスアームブラケットの部分に装着される。事前に組み立てと車体に対する配置を確認しておこう。

- 1 今号で組み立てたリアサスアーム(下)とギアボックスを用意する。この時、ギアボックスとリアサスアーム(下)は写真のように下側を上にして持つ。

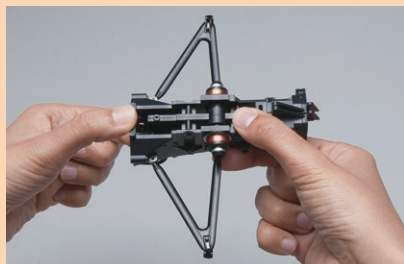


■ リアサスアーム(下)は、プッシュロッドブラケットがない側が車体の下になる。

- 2 リアサスアーム(下)の開いた部分をギアボックスの左右に取り付けられたリアサスアームブラケットにそれぞれ組み合わせ、ギアボックスの底にある赤矢印で示した溝にはめる。



- 3 リアサスアーム(下)がギアボックスから外れないよう押さえながら上下を裏返す。これが正しい向きとなるので、リアサスアーム(下)の取り付け位置を確認しておこう。



■ リアサスアーム(下)に取り付けられたプッシュロッドブラケットが上にあることを確認する。

## PIT IN

### 実車のリアサスアーム周り

#### 取材した実車写真により、リアサスアーム周り部分のディテールを紹介

本モデルでは、エンジンやギアボックスなどの荷重がかかるために、実車では2つに分かれているリアサスアーム(下)を連結し、その強度を高めている。

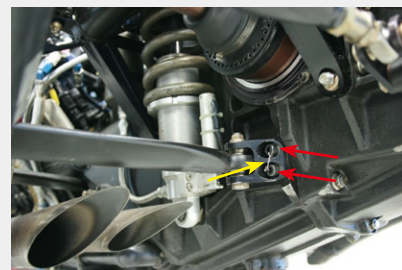
実車のリアサスアームは、それぞれ分割され、ギアボックス側面に、ブラケットにより固定されている。それらを実車の写真から確認してみよう。



車体裏側

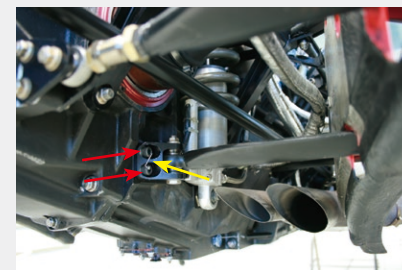
●黄色矢印で示した部分が、それぞれのリアサスアーム取付部分。

#### 左側面



●ブラケットは赤矢印で示した右に2本、写真では見えないが左に2本、合計4本のキャップボルトで固定され、黄色矢印で示した緩み止めワイヤーがつけられている。

#### 右側面



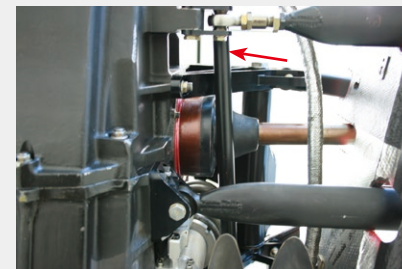
●左側面と同様に、赤矢印で示した部分にキャップボルトが取り付けられ、黄色矢印で示したように緩み止めのワイヤーがつけられている。

#### 左側面(下から)



●リアサスアームを取り付けるボルトは、赤矢印で示した部分に車体の下部から挿入されている。

#### 右側面(下から)



●赤矢印で示した部分に、ギアリングが見える。(ギアリングについては、34号のPIT IN参照)